

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人 北都健勝学園

(2) 大学名

新潟リハビリテーション大学

(3) 大学の位置

〒958-0053
新潟県村上市上の山2番16号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	届出時	変更状況	備考
理事長	マトバ ミチコ 的場 巳知子 (平成19年4月)		
学長	オオサワ ゲンゴ 大澤 源吾 (平成19年4月)	ノダ タダシ 野田 忠 (平成23年3月)	前学長辞任に伴う新学長選出 (平成23年3月1日) (23)
学部長	タカハシ クニオ 高橋 邦丕 (平成22年4月)		
学科長等	タカハシ クニオ 高橋 邦丕 (平成22年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成20年度に報告済の内容 → (20)

平成23年度に報告する内容 → (23)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください。
 ・ 様式は, 平成20年度開設の4年制の学科の場合(平成23年度までの4年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象学部等の名称, 定員

調査対象学部等の名称(学位)	設置時の計画				備考
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
医療学部 リハビリテーション学科 理学療法専攻 言語聴覚専攻 学士(リハビリテーション学)	年 4 4	人 40 40	年次 人 0 0	人 160 160	

- (注) ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前の人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度		平成22年度		平成23年度		平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	80人	人	80人	人	(-)	(-)	0.86倍	
	[-]	[-]	[-]	[-]				
志願者数	80	(-)	201	(-)	(-)	(-)		
	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]		
受験者数	76	(-)	198	(-)	(-)	(-)		
	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]		
合格者数	76	(-)	113	(-)	(-)	(-)		
	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]		
B 入学者数	54	(-)	85	(-)	(-)	(-)		
	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]		
入学定員超過率 B/A	0.67		1.06					

- (注) ・ () 内には, 編入学の状況について外数で記入してください。なお, 編入学を複数年次で行っている場合には, (())書きとするなどし, その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ [] 内には, 留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, 各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出してください。なお, 計算の際は小数点以下第3位を切り捨て, 小数点第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
 ・ 「平成23年度」には, 平成23年5月1日現在の状況を記入してください。
 ・ 「平成20~22年度」には, 確定した数値を記入してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

学 年	平成22年度		平成23年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	(-) 54	(-) —	(-) 86	(-) —	
2年次	/		(-) 51	(-) —	
3年次			/		
4年次	/				
計			[-] 54	[-] —	

- (注) ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学整数を記入してください。
 - ・ 「平成23年度」には、平成23年5月1日現在の状況を記入してください。
 - ・ 「平成20～22年度」には、確定した数値を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	退学者数 (a)	在学者数 (b)	入学者に対する 退学者数の割合 (a/b)
平成20年度 (平成20年4月1日～ 平成21年3月31日)	計 [—] —	(累積)計 [—]	— %
	うち平成20年度入学者 — 人	うち平成20年度 — 人	
	(主な退学理由)		
平成21年度 (平成21年4月1日～ 平成22年3月31日)	計 [—]	(累積)計 [—]	— %
	うち平成20年度入学者 — 人	うち平成20年度 — 人	
	うち平成21年度入学者 — 人	うち平成21年度 — 人	
	(主な退学理由)		
平成22年度 (平成22年4月1日～ 平成23年3月31日)	計 [0]	(累積)計 [0]	3.7%
	うち平成20年度入学者 0人	うち平成20年度 0人	
	うち平成21年度入学者 0人	うち平成21年度 0人	
	うち平成22年度入学者 2人	うち平成22年度 54人	
	(主な退学理由) ・家庭の事情 1人 ・除籍 1人		

(注)・各年度の退学者数・在学者数については、該当年度間(例えば、平成22年度であれば、平成22年4月1日から平成23年3月末まで)の状況を記載してください。また、数字については確定した数値を記入してください。

- ・ []内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度における退学者数】を、【当該対象年度の入学者数+当該対象年度前年度までの確定した在学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記入してください。なお、参考までに例示を添付しますので、そちらをご参照ください。
- ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に、その人数も含めて記入してください。
 - ・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 - ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

<医療学部 リハビリテーション学科 理学療法専攻>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養分野	導入教育	フレッシュマンセミナーⅠ（基礎）	1前	1			1	1	3	4		○教育課程の充実を図るため教員を追加（23） 平田信彦（講師） 和田有子（講師） 佐藤松（講師） 平成23年1月 教員審査済 判定可（23）
		フレッシュマンセミナーⅡ（応用）	1通 1後	1			14	3 4	4	4	4	○教育課程の充実を図るため開講時期を後期から通年に変更（22） ○齋藤信夫（准教授）が辞退したため、教員の配置変更。後任未定（22）
	人文科学	臨床倫理学	1・2前 未開講 1・2後		2		1					○通常開講。教育課程の充実を図るため開講時期を後期から前期に変更（23） ○履修希望者がいなかったため（22）
		地域文化論	1・2前		2							
		心理学概論	1・2前		2			1				
		行動科学概論	1・2前		2					1		
	社会科学	社会学	1・2前		2							
		経営学	1・2後		2							
		法学	1・2後		2							
		対人関係論	1・2前		2					1		
	自然科学	統計学	1前	2	2							○文部科学省医学教育課の指導（平成21年11月）により選択科目から必修科目に変更（22）
		生物科学	1・2前		2					1		
		地域環境学	1・2前 1・2後		2							○担当する兼任教員の都合により、栗生明、奥平与久、鈴木弘樹のオムニバス形式に変更（23） ○担当する兼任教員の都合により、開講時期を前期に変更（22）
		人間支援科学	1・2後		2							
		物理学	1・2前		2							
	体育関係学	レクリエーション	1・2前		1							
		保健体育	1前	1	4							○文部科学省医学教育課の指導（平成21年11月）により選択科目から必修科目に変更（22）
	情報	情報処理技法	1前	2								
		情報処理演習	1・2後		2					1		
	外国語	英語Ⅰ（初級）	1前		2		1					
英語Ⅱ（中級）		1・2前 1・2通		2							○担当する兼任教員の都合により、開講時期を前期に変更（22）	
英語Ⅲ（上級）		未開講 1・2後		2							○履修希望者がいなかったため（23） ○履修希望者がいなかったため（22）	
オーラルコミュニケーションⅠ（初級）		1前		2		1						
オーラルコミュニケーションⅡ（中級）		1・2前 1・2後 1・2通		2							○教育課程の充実を図るため開講時期を後期から前期に変更（23） ○担当する兼任教員の都合により、開講時期を後期に変更（22）	
オーラルコミュニケーションⅢ（上級）		未開講 1・2後		2							○履修希望者がいなかったため（23） ○履修希望者がいなかったため（22）	
医療英文抄読法		3前	2			1						
小計（26科目）												

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				専任教員等の配置					備 考	
			必修	選択	自由		教授	准教授	講師	助教	助手		
専門基礎分野	基礎医学	解剖学Ⅰ（総論）	1通	2			1						
		解剖学Ⅱ（各論）	2前	1			1						
		解剖学実習	2後	1			1			2	2		
		生理学	1通	2			1						
		神経生理学	2前	2			1						
		生理学実習	2後	1			2 4			2	2		○教育課程の充実を図るため教員を追加 山村千絵（教授） 平成23年1月 教員審査済 判定可（23）
		病理学概論	2後	1									
		医学概論	1後	1			1						
	臨床医学	臨床心理学	1後	2			4		1				○杉下守弘（教授）が退職したため、教員の配置変更。科目開講時までには教員を配置する予定。（23）
		生涯発達心理学	1後	2				1					
		内科学	2前	1			1						
		臨床神経学	2前	1			1						
		小児科学	2後	1					1				
		精神医学	2前	1				1					
		リハビリテーション医学	2前	1			1						
		医療安全管理学	1前	2									
	社会福祉	感染症学	2前	1					1				
		リハビリテーション概論	1後	1			1						
	リハビリ関連科目	保健医療福祉制度論	2後 2前	1									○担当する兼任教員の都合により、開講時期を後期に変更（23）
		高次脳機能障害学概論	2後		1		1						
		摂食・嚥下障害学概論	2後		1		1						
		チーム医療学	1・2後		1								
		認知症	2・3前		1		1						
		薬理学	2・3前		1								
		生化学	2・3前		1								
		栄養学	1・2前		1			1					
	心理関連科目	社会心理学	1・2後		2				1				
		食の心理学	2・3前		1			1					
健康心理学		1・2後		2			1						
児童心理学		1・2後		2				1					
心理学実験演習		1・2後		3			1	1					
心理測定法		2・3前		4				1					
認知心理学		1・2後		2				1					
学習心理学		1・2後		2			1						
音響・聴覚心理学	2・3前		2				1						
神経心理学	2・3後 2・3前		2			1					○杉下守弘（教授）が退職したため、教員の配置変更。後任は相場恵美子（非常勤）（23）		
小計（36科目）													

科目区分	授業科目の名称	配当年	単位数				専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門分野	基礎理学療法学	基礎運動学概論	1後	2			1						佐藤舜也(教授) 平成22年1月 教員審査済 判定可(22)	
		基礎運動学各論	2前	1			1						佐藤舜也(教授) 平成22年1月 教員審査済 判定可(22)	
		運動学実習	2前	1			1				1		○教育の充実を図るため、教員の配置変更。 浅海岩生(教授) 平成23年1月 教員審査済 判定可(23)	
		整形外科学	2前	1			1							
		理学療法概論	1前	1			1						灰田信英(教授) 平成22年1月 教員審査済 判定可(22)	
		基礎理学療法学	2前	1			1						浅海岩生(教授) 平成22年1月 教員審査済 判定可(22)	
		基礎運動療法学	2前	1			1						○教育の充実を図るため、教員の配置変更。 濱出茂治(教授) 平成23年1月 教員審査済 判定可(23)	
		リハビリテーション工学	2後	1										灰田信英(教授) 平成22年1月 教員審査済 判定可(22)
		動作解析学実習	3前	1			1					1		
		臨床運動学	3前	1				1						佐藤舜也(教授) 平成22年1月 教員審査済 判定可(22)
	理学療法評価学	理学療法評価学	1後	2			2						高橋邦正(教授) 灰田信英(教授) 平成22年1月 教員審査済 判定可(22)	
		理学療法評価学実習	2通 2後	2							1	1	○教育課程の充実を図るため開講時期を後期から過年に変更(23)	
		理学療法評価学演習	3前	1								1		
	理学療法治療学	物理療法学	2後	2			1	1					濱出茂治(教授) 平成23年1月 教員審査済 判定可(23) ○平成22年7月の教員審査に提出予定(22)	
		物理療法学実習	3通	1			1					1		
		日常生活活動学	2後	2										
		日常生活活動学実習	3通	1							1			
		運動器疾患理学療法学	3前	2			1	1					○平成23年7月の教員審査に提出予定(23) ○平成22年7月の教員審査に提出予定(22)	
		運動器疾患理学療法学実習	3前	1							1	1		
		中枢神経疾患理学療法学	3前	2			1	1					濱出茂治(教授) 平成23年1月 教員審査済 判定可(23) ○平成22年7月の教員審査に提出予定(22)	
中枢神経疾患理学療法学実習		3通	1			1					1	高橋洋(教授) 平成22年1月 教員審査済 判定可(22)		
神経・筋疾患理学療法学		3前	1							1				
発達障害理学療法学		3後	2						1			和田有子(講師) 平成22年1月 教員審査済 判定可(22)		
呼吸器疾患理学療法学		3後	1			1								
循環器疾患理学療法学		3後	1											
代謝系疾患理学療法学		3前	1			1								
スポーツ障害理学療法学		3後		1										
老年期理学療法学	3後		1		1									
健康増進理学療法学	3後		1						1					
地域理学療法学	義肢・装具学	3後	2			1								
	生活環境論	2後	2									○非常勤確定 小野敏子、児玉敏彦、野澤繁、原口裕希、松尾真輔、吉井真理以上6名にてオムニバス形式に変更(23)		
	地域リハビリテーション論	3後	2			1								

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備 考			
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門分野	臨床実習	臨床見学実習	1後	1			6 5	0 1			2	2	濱出茂治(教授) 平成23年1月 教員審査済 判定可(23) ○齋藤信夫(准教授)が辞退したため、教員の配置変更。後任未定(22)	
		基礎実習	2後	2			6 5	0 1			2	2	濱出茂治(教授) 平成23年1月 教員審査済 判定可(23) ○齋藤信夫(准教授)が辞退したため、教員の配置変更。後任未定(22)	
		臨床評価実習	3後	4			6 5	0 1			2	2	濱出茂治(教授) 平成23年1月 教員審査済 判定可(23) ○齋藤信夫(准教授)が辞退したため、教員の配置変更。後任未定(22)	
		臨床総合実習Ⅰ(評価・治療)	4前	8			6 5	0 1			2	2	濱出茂治(教授) 平成23年1月 教員審査済 判定可(23) ○齋藤信夫(准教授)が辞退したため、教員の配置変更。後任未定(22)	
		臨床総合実習Ⅱ(総括)	4前	8			6 5	0 1			2	2	濱出茂治(教授) 平成23年1月 教員審査済 判定可(23) ○齋藤信夫(准教授)が辞退したため、教員の配置変更。後任未定(22)	
	特論	理学療法技術学Ⅰ(中枢)	4後		1			1						高橋邦丞(教授) 平成22年1月 教員審査済 判定可(22)
		理学療法技術学Ⅱ(運動器)	4後		1			1						佐藤舜也(教授) 平成22年2月 教員審査済 判定可(22)
		理学療法技術学Ⅲ(痛み)	4後		1									
		卒業研究	4通		2		15 16	2 3	4		2			濱出茂治(教授) 平成23年1月 教員審査済 判定可(23) ○杉下守弘(教授)、岩田まな(教授)が退職したため、教員の配置変更。後任調整中(23) ○齋藤信夫(准教授)が辞退したため、教員の配置変更。後任未定(22)
		小計(41科目)												

2 授業科目の概要

<医療学部 リハビリテーション学科 言語聴覚学専攻>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
導入教育	フレッシュマンセミナーⅠ（基礎）	1前	1			1	1	3	4		○教育課程の充実を図るため教員を追加（23） 平田恒彦（講師） 和田有子（講師） 佐藤拓（講師） 平成23年1月 教員審査済 判定可（23）
	フレッシュマンセミナーⅡ（応用）	1通 1後	1			14	3 4	4	4	4	○教育課程の充実を図るため開講時期を後期から通年に変更（22） ○齋藤信夫（准教授）が辞退したため、教員の配置変更。後任未定（22）
人文科学	臨床倫理学	1・2前 未開講		2		1					○通常開講。教育課程の充実を図るため開講時期を後期から前期に変更（23） ○履修希望者がいなかったため（22）
	地域文化論	1・2前		2							
	心理学概論	1・2前		2			1				
	行動科学概論	1・2前		2				1			
社会科学	社会学	1・2前		2							
	経営学	1・2後		2							
	法学	1・2後		2							
	対人関係論	1・2前		2				1			
自然科学	統計学	1前	2	2							○文部科学省医学教育課の指導（平成21年11月）により選択科目から必修科目に変更（22）
	生物科学	1・2前		2				1			
	地域環境学	1・2前 1・2後		2							○担当する兼任教員の都合により、栗生明、奥平与人、鈴木弘樹のオムニバス形式に変更（23） ○担当する兼任教員の都合により、開講時期を前期に変更（22）
	人間支援科学	1・2後		2							
	物理学	1・2前		2							
体育関係学	レクリエーション	1・2前		1							
	保健体育	1前	1	4							○文部科学省医学教育課の指導（平成21年11月）により選択科目から必修科目に変更（22）
情報	情報処理技法	1前	2								
	情報処理演習	1・2後		2				1			
外国語	英語Ⅰ（初級）	1前		2		1					
	英語Ⅱ（中級）	1・2前 1・2通		2							○担当する兼任教員の都合により、開講時期を前期に変更（22）
	英語Ⅲ（上級）	未開講 1・2後		2							○履修希望者がいなかったため（23） ○履修希望者がいなかったため（22）
	オーラルコミュニケーションⅠ（初級）	1前		2		1					
	オーラルコミュニケーションⅡ（中級）	1・2前 1・2後 1・2通		2							○教育課程の充実を図るため開講時期を後期から前期に変更（23） ○担当する兼任教員の都合により、開講時期を後期に変更（22）
	オーラルコミュニケーションⅢ（上級）	未開講 1・2後		2							○履修希望者がいなかったため（23） ○履修希望者がいなかったため（22）
	医療英文抄読法	3前	2			1					
	小計（26科目）										

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由		教授	准教授	講師	助教	助手		
専門基礎分野	基礎医学	解剖学Ⅰ（総論）	1通	2			1						
		解剖学Ⅱ（各論）	2前	1			1						
		解剖学実習	2後	1			1			2	2		
		生理学	1通	2			1						
		神経生理学	2前	2			1						
		生理学実習	2後	1			2 1			2	2		○教育課程の充実を図るため教員を追加 山村千絵（教授） 平成23年1月 教員審査済 判定可（23）
		病理学概論	2後	1									
		医学概論	1後	1			1						
	臨床医学	臨床心理学	1後	2			1		1				○杉下守弘（教授）が退職したため、教員の配置変更。科目開講時までには教員を配置する予定。（23）
		生涯発達心理学	1後	2				1					
		内科学	2前	1			1						
		臨床神経学	2前	1			1						
		小児科学	2後	1					1				
		精神医学	2前	1				1					
		リハビリテーション医学	2前	1			1						
		医療安全管理学	1前	2									
	社会福祉	リハビリテーション概論	1後	1			1						
		保健医療福祉制度論	2後 2前	1									○担当する兼任教員の都合により、開講時期を後期に変更（23）
	リハビリ関連科目	高次脳機能障害学概論	2後		1		1						
		摂食・嚥下障害学概論	2後		1		1						
		チーム医療学	1・2後		1								
		認知症	2・3前		1		1						
		薬理学	2・3前		1								
		生化学	2・3前		1								
	心理関連科目	栄養学	1・2前		1			1					
		社会心理学	1・2後		2				1				
		食の心理学	2・3前		1			1					
		健康心理学	1・2後		2			1					
		児童心理学	1・2後		2				1				
		心理学実験演習	1・2後		3			1	1				
		心理測定法	2・3前		4				1				
		認知心理学	1・2後		2				1				
		学習心理学	1・2後		2			1					
	音響・聴覚心理学	2・3前		2					1				
	神経心理学	2・3後 2・3前		2			1					○杉下守弘（教授）が退職したため、教員の配置変更。後任は相場恵美子（非常勤）（23）	
		小計（36科目）											

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門分野	言語聴覚障害学	言語聴覚障害学総論	1後				1		4				○教育の充実を図るため、教員の配置変更。 倉巻雅子（教授） 平成23年1月 教員審査済 判定可（23）
		言語聴覚障害学診断学	1前	2									○岩田まな（教授）が退職したため、教員の配置変更。後任調整中（23）
		言語学	2後	2									
		音声学	3後	2									
	失音・失声・失音障害学	言語医学	2通	2									
		失語症学	1後	1			1						
		高次脳機能障害学各論	2通	1			1						
		高次脳機能障害学実習	3前	1			1			1			
	言語発達障害学	言語発達学	3通	1									
		言語発達障害学概論	1後	1									
		言語発達障害学各論Ⅰ（MR・自閉症）	2前	2			4						○岩田まな（教授）が退職したため、教員の配置変更。後任調整中（23）
		言語発達障害学各論Ⅱ（CP・その他）	2後	2			4						○岩田まな（教授）が退職したため、教員の配置変更。後任調整中（23）
		言語発達障害学実習	3前	1			4			1			○岩田まな（教授）が退職したため、教員の配置変更。後任調整中（23）
	発声発語・嚥下障害学	音声医学	3通	1			1						
		形成外科学	1後	1			1						
		臨床歯科医学	2前	1			1						
		音声障害学	2前	1			1						
		運動障害性構音障害学	3前	2									
		器質・機能的構音障害学	3前	1									○教育の充実を図るため、教員の配置変更。後任は糟谷政代（非常勤）（23）
		吃音	3後	1									
		呼吸リハビリテーション学	3後	1			1						
		摂食・嚥下障害学各論	3前	1			1						
	摂食・嚥下障害学実習	3前	1			1			1				
	聴覚障害学	聴覚医学	3後	1			1						
		耳鼻咽喉科学	1後	1			1						
		小児聴覚障害学	2前	1			1						
		成人聴覚障害学	2前	1									
		補聴器・人工内耳	2後	2									
		聴力検査法	3後	2			1						
		聴力検査実習	3前	1			1			1			
	臨床実習	臨床見学実習	3前	1			2 3	1	1	2	2		○岩田まな（教授）が退職したため、教員の配置変更。（23）
		基礎実習	1後	1			2 3	1	1	2	2		○岩田まな（教授）が退職したため、教員の配置変更。（23）
		臨床評価実習	2後	4			2 3	1	1	2	2		○岩田まな（教授）が退職したため、教員の配置変更。（23）
		臨床総合実習	3後	8			2 3	1	1	2	2		○岩田まな（教授）が退職したため、教員の配置変更。（23）
	特論	言語聴覚学演習Ⅰ（基礎）	4前	2				1		2	2		
		言語聴覚学演習Ⅱ（専門）	4通	2			1			2	2		
		言語聴覚学演習Ⅲ（臨床）	4通	2					1	2			
		卒業研究	4通	2			15 16	2 3	4	2			濱出茂治（教授） 平成23年1月 教員審査済 判定可（23） ○杉下守弘（教授）、岩田まな（教授）が退職したため、教員の配置変更。後任調整中（23） ○齋藤信夫（准教授）が辞退したため、教員の配置変更。後任未定（22）
	小計（38科目）												

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	校舎敷地と運動場用地 までの距離 5km・車利用約7分			
	校舎敷地	8,764.81㎡	㎡	㎡	8,764.81㎡				
	運動場用地	5,000.00㎡	㎡	㎡	5,000.00㎡				
	小 計	13,764.81㎡	㎡	㎡	13,764.81㎡				
	そ の 他	2,261.47㎡	㎡	㎡	2,261.47㎡				
	合 計	16,026.28㎡	㎡	㎡	16,026.28㎡				
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	共有校舎の玄関棟88.82㎡が71.18 ㎡に変更となった為、全体の校 舎面積が微減となった。これは建 築計画と登記上面積の誤差による もの(22)				
	7,028.75㎡ 7,046.39㎡ (2,402.77㎡)	0㎡	0㎡	7,028.75㎡ 7,046.39㎡ 7,028.75㎡ (7,046.39㎡)					
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設				
	13室	7室	12室	1室 (補助職員 1人)	1室 (補助職員 1人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数					
	医療学部			26 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機 械 ・ 器 具 点	標 本 点	図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費(運用コスト)を含む。 学生の学修や知的好奇心の増進に資する為、学術雑誌の和書及び事典等を増加した(22)	
	医療学部	25,000 [3,000] (22,670 [1,217]) -(21,000 [1,207])-	50 [17] (50 [17])	60 [56] (40 [36])	650 (596)	2,900 (2,840)	100 (61)		
	計	25,000 [3,000] (22,670 [1,217]) -(21,000 [1,207])-	50 [17] (50 [17])	60 [56] (40 [36])	650 (596)	2,900 (2,840)	100 (61)		
(6) 図 書 館	面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数				
	470.17㎡		90		80,000冊				
(7) 体 育 館	面 積		体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要				建築計画と登記上面積の誤差による変更(22)		
	338.27㎡ 341.00㎡		—						
(8) 経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	設備購入費は契約締結及び購入、支払いが当初計画より変更があった為(22)
		教員1人当り研究費等	300千円	300千円	図書購入費	5,355千円	8,000千円	8,000千円	
	共 同 研 究 費 等	1,500千円	3,000千円	設備購入費	40,323千円 41,851千円	41,581千円 39,898千円	2,000千円		
	学 生 1 人 当 り 納 付 金	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次		
		1,750千円	1,400千円	1,400千円	1,400千円	—	—		
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常経費補助金、雑収入等						

(注)・ 設置認可時の計画を、認可申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成23年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(23)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

4 既設大学等の状況

【該当なし】

大学の名称		〇〇大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入定学員	編入学員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開年度	所在地		
	年	人	年次人	人		倍				
大学の名称		〇〇短期大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入定学員	編入学員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開年度	所在地		
	年	人	年次人	人		倍				

(注) ・ 本調査の対象となっている大学等の設置者（学校法人等）が、既に設置している全ての大学の学部、学部の学科、短期大学の学科及び高等専門学校学科について、大学、短期大学又は高等専門学校ごとに、平成23年5月1日現在の状況を記入してください。

（専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。）

- ・ 認可申請書の様式第2号（その1の1）に準じて作成してください。
- ・ 「定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点第2位まで（小数点第3位を切り捨て）を、学科（短期大学において専攻課程を設置している場合には、専攻課程）単位で記入してください。なお、学生募集停止を行った学科（短期大学において専攻課程を設置している場合には、専攻課程）の記載は不要です。
- ・ 学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員と収容定員は「-」とし、「備考」に「平成〇年より学生募集停止」と記入してください。

6 留意事項に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
認 可 時 (平成21年10月)	<p>1. 設置の趣旨・目的等が活かされるよう、設置計画を確実に履行すること。また、開設時から4年制大学にふさわしい教育研究活動を行うことはもとより、その水準を一層向上させるよう努めること。特に医療学部としてのカリキュラムが実現されるよう、実習教育をはじめとした教育課程の充実に努めるとともに、その教育課程を不断に検証すること。</p>	<p>4年制大学にふさわしい教育研究活動及び教育課程の充実に努め、それを検証するため以下の努力を行っている。</p> <p>○全般的事項 設置の趣旨・目的等を活かすよう、次項「全般的事項」7-1-①に示すように、学生や社会に資料等で明示し、公開している。</p> <p>○教育研究活動 教育研究活動の水準を向上させるため、学内にてFD委員会を設置し、開学時より活動している。</p> <p>○教育課程の充実 教育課程の充実を図るために、教務委員会を設置し、カリキュラムが滞りなく遂行され、その効果を不断に検証できるよう努力している。 (22)</p>	
	<p>2. 「解剖学実習」において、言語聴覚学専攻に特異的な解剖領域（頭・頸部の解剖等）の充実に努めること。（言語聴覚学専攻）</p>	<p>○講義内容を変更し、頭・頸部の解剖を含めた内容とした。 (22)</p>	
	<p>3. 運動場が別地にあることから、教育に支障のないようにすることはもとより、学生の課外活動等に配慮すること。</p>	<p>○今年度は、運動場を利用する講義は未実施。同じく課外活動においても現時点では運動場は利用していない。 (22)</p>	<p>○正課の保健体育においては現在のところ本学体育館及び、近隣の体育館（本学より約3km）を使用している。今後運動場を使用する場合は、必要に応じて送迎（学有車等）をする予定である。</p> <p>また課外活動においては、学内で検討を重ね、今後利用するであろう学生に対して不利益が生じないように配慮をしていく。（22）</p> <p>現在保健体育では運動場の使用はないため問題ない。</p> <p>課外活動時は、顧問が常時完全管理を行う。また、移動が困難な学生は顧問が校有車にて送迎を行う。その他にも学生員会及び事務職員が校有車にて送迎を行い、課外活動に距離的な支障が生じないように十分配慮する。また移動時の校有車両については万一の事故時に備えての保険加入はもとより、交通安全についても十分注意するよう常によびかけ、事故防止に努める。 (23)</p>

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
<p>認可時 (平成21年10月)</p>	<p>4. 教員の補充を必要とされた17授業科目については、科目開設時までには教員を充足すること。うち、専任教員の配置を必要とされた15授業科目については、確実に専任教員を配置すること。</p>	<p>○専任教員の補充を必要とされた14授業科目については、平成21年12月「専任教員採用等設置計画変更書(AC)」を提出した。その結果、平成22年2月文部科学省大学設置室より11科目については担当が「可」である旨の連絡を受けた。以下に詳細を示す。 「基礎運動学概論」「基礎運動学各論」「臨床運動学」「理学療法技術学Ⅱ(運動器)」：教授 佐藤舜也 「基礎理学療法学」：教授 浅海岩生 「理学療法概論」「基礎運動療法学」「理学療法評価学」：教授 灰田信英 「理学療法評価学」「理学療法技術学Ⅰ(中枢)」：教授 高橋邦丕 「中枢神経疾患理学療法学実習」：教授 高橋洋 「発達障害理学療法学」：講師 和田有子 (22)</p> <p>○専任教員の補充を必要とされた14授業科目のうち、13授業科目について専任教員を配置した。うち11授業科目は上記に記載。残り2授業科目は平成23年2月の「専任教員採用等設置計画変更書(AC)」に提出し、「可」の判定を受けた。以下に詳細を示す。 「物理療法学」「中枢神経障害理学療法学」：教授 濱出茂治 (23)</p> <p>○兼任教員の補充を必要とされた3授業科目のうち、2授業科目は兼任教員を補充した。以下に詳細を示す。 「日常生活活動学」：高橋明美、田中健 「循環器疾患理学療法学」：椿淳裕 (22)</p> <p>○兼任教員の補充を必要とされた3授業科目すべてに兼任教員を配置した。うち2授業科目は上記に記載、残り1授業科目を補充した。 「生活環境論」：小野敏子、松尾真輔、原口裕希、野澤繁、吉井真里、児玉敏彦 (23)</p>	<p>○専任教員の補充を必要とされた14授業科目のうち、3授業科目(「物理療法学」「中枢神経疾患理学療法学」「運動器疾患理学療法学」)については平成22年6月に「専任教員採用等設置計画変更書(AC)」にて提出する。3授業科目とも平成22年度に開講しないため、問題はない。(22)</p> <p>○兼任教員の補充を必要とされた「生活環境論」は現在調整中である。平成22年度は開講しないため問題はない。(22)</p> <p>○専任教員の補充を必要とされた14授業科目のうち、1授業科目の「運動器疾患理学療法学」については、平成23年度内の「専任教員採用等設置計画書(AC)」に提出する。平成23年度内に開講しないため、問題はない。(23)</p>

<p>認可時 (平成21年10月)</p>	<p>(その他の意見) ○論理的な思考を涵養する上で、「自助具等の制作発表」は不適切であることから削除することが望ましい。</p> <p>○シラバスにおける成績評価の記載を充実することが望ましい。</p>	<p>○論理的思考を涵養するため、カリキュラム内の卒業研究において、「自助具等の制作発表」が含まれていたが、指摘を受け削除した。卒業研究では、少人数のゼミ形式での症例報告等を行い、科学的根拠に基づいた論理的思考、プレゼンテーション技能、コミュニケーション技能を身に付けることを目的とする。</p> <p>○新入生オリエンテーションに配布した「学生便覧、履修の手引き」内のシラバスには、成績評価をGPA制度に準じて行う旨を記載した。GPA制度の成績評価については、新入生オリエンテーション等にて十分説明した。</p>	
---------------------------	--	---	--

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設置計画 履行状況 調査時 (23年2月)	<p>1. 運動場については、早急に使用できるよう整備すること。その際、安全管理に留意することはもとより、学生からの要望等も踏まえつつ必要な環境整備を図るよう留意すること。</p>	<p>○留意事項に示された内容を履行するために、学生の要望を最大限考慮し、昨年22年度に陸上の基礎運動用具を揃えさらに、フットサル、キャッチボールができるよう整備をした。学生の課外活動がより活発になってきたことに伴い、野球サークル、サッカーサークルが充実した活動ができるよう、運動場ネット、整備用レーキ、サッカーゴールを購入した。 また、安全に活動できるよう、運動場の日常的な巡視・点検を大学職員により実施し、緊急時に備え、隣接している保育園へ協力を依頼している。 引き続き施設設備の充実を図りたい。(23)</p>	
	<p>2. 専任教員の補充を必要とされた14科目全てについて、新たに教員を採用せず、既に配置されている教員の担当科目を追加し対応するのは不適切のため、若手の専任教員を早急に確保するとともに、教員の負担軽減や研究環境整備にも配慮すること。</p>	<p>○専任教員の補充を必要とされた14科目のうち、2科目については新たな教員を配置し、平成22年1月「専任教員採用等設置計画変更書(AC)」にて「可」の判定を受けた。 採用教員と担当科目については下記に示す。 採用教員：教授 濱出茂治(62歳) 担当科目：「物理療法学」・「中枢神経疾患理学療法学」(23)</p>	<p>○専任教員の補充を必要とされた14科目のうち、担当未定の「運動器疾患理学療法学」1科目については新たな教員を配置する予定である。 ○若手の専任教員の確保については、平成23年6月に「専任教員採用等設置計画変更書(AC)」にて1名提出する予定である。(23)</p>
	<p>3. 医療学部リハビリテーション学科の定員充足の平均が0.7倍未満となっていることから、学生確保に努めるとともに、今後の定員の在り方について検討すること。</p>	<p>○平成23年度入学試験を実施した結果、医療学部リハビリテーション学科での定員充足は0.86倍となった。平成23年度入学者数は85名となり、定員を上回ったためこのような数値となった。平成22年度入学生の学生募集と違い、年度当初からの募集活動が可能であった点や、幅広い層の受験を可能としている入試種別の追加、入試回数の増加等により23年度の入学者数が増加した結果である。今後も定員確保に向けて検討・努力を行う。(23)</p>	

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
	<p>(その他意見) ○単位の実質化の観点から、成績評価の厳格化(グレード・ポイント・アベレージ(GPA)や再試験制度の厳格運用等)に留意すること。</p>	<p>○成績評価の厳格運用を遂行するために、以下の内容を変更した。 ①チューター制度を導入 教員1名に対して4～6名程度の学生を割り当て、履修指導を行う。 ②GPA総合評価とCAP制の変更 新総合評価 (1) 4.0～3.4 最優秀 (2) 3.3～2.7 優 (3) 2.6～2.0 良 (4) 1.9～1.3 可 (5) 1.3未満 注意 旧総合評価に比べ、新総合評価では基準を厳しくした。さらにCAP制に該当する成績基準を1.5から1.9へと引き上げた。 ③再試験受験資格 平成22年度では、定期試験にて不合格であった科目に対して、申請書を提出することで誰でも再試験を受験できたが、平成23年度より再試験制度を厳格化し、再試験受験資格を「定期試験又は追試験を受験して不合格となり進級に必要な単位が不足してしまった場合で、その不足単位が3科目以内である者」とするよう規程を整備した。 (23) (添付資料：学生便覧「試験について」参照)</p>	
	<p>○学生への情報提供について一層の充実を図ること。</p>	<p>○学生への情報提供 ①掲示板の掲示方法 掲示板を学年、専攻別に設けて掲示を行い、学生が確認し易いように整備した。 ②携帯電話へのメール連絡 掲示板のみでは、緊急の変更内容の対応できないため、重要かつ緊急の連絡事項に関しては、掲示板と合わせて学生個人のEメールアドレス宛に連絡を行っている。 ③Xteamの導入 インターネットを利用して本学のグループウェアにアクセスすることで、最新の時間割等が確認できるようにしている。(23)</p>	

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
	○学生の要望等を踏まえつつ、キャンパスアメニティーの充実を図ること。	○学生対象の学生食堂改善、購買部設置、大学バスに関するアンケートの実施。結果に基づき以下の如く改善検討を行った。 ①学食のテーブル配置改善による空間利用の改良 ②学食の改修工事の計画交渉中。 ③メニュー改善のための地元団体との連携交渉、それに伴う試食会の実施 ④今後の学食改善に対する検討会実施（月1回程度）と学生委員募集 ⑤学食改善に伴う設備の検討とそれに伴う研修への参加 ⑥購買部設置に関する検討会の実施（④と同時に開催） ⑧保健室の利用し易さを改良すべく、学内医師による当番表を作成。保健室利用に関する情報を学生に周知した。 (23)	①②学食改修工事については、平成23年度中に実施するために経費を予算化している。具体的な改修内容として、景観美化のためのパーテーション設置、床面張替、引き戸からドアへの変更を予定。 ③④メニュー改善については、平成23年度中に学食業者へ要望書を提出しメニューを含め内容の改善を提案する予定。また、引き続き地元団体との連携を進めるため平成23年度内にも試食会も実施し、学生のニーズを把握し、地域の食材・食文化への理解促進も合わせて図る予定である。 (23)

(注) ・ 「認可時」には、当該大学等の設置認可時に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、毎年度、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された留意事項に対する履行状況等について、毎年度、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料を添付してください。
- ・ 定員管理に係る留意事項への履行状況については、指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。
- ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。

② 教育課程の編成及び考え方の特色

認可時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>(a) 教育課程の編成の考え方 履修科目を大きく「教養分野」「専門基礎分野」「専門分野」に分け学習が進められるように体系的に編成している。必修科目及び選択科目を合わせて「教養分野」では26科目48単位配置し、「専門基礎分野」では36科目54単位配置されている。両分野では、専攻別とせずリハビリテーション学科として理学療法専攻、言語聴覚専攻が共に学び人間形成、専門職業人としての基礎を身につける。「専門分野」から、専攻別に分かれ、理学療法専攻に41科目71単位を言語聴覚専攻に38科目61単位を配置し、より高度で専門的な学習を行うように編成している。</p> <p>①教養分野（26単位以上） 教育目的達成のための基盤となる科目群であり、慈愛に満ちた人間性豊かな社会人と、幅広い知識に裏打ちされた医療専門職を目指す学生の骨格となる部分である。教養分野は「導入教育」「人文科学」「社会科学」「自然科学」「体育関係学」「情報」「外国語」7分野の細目に分かれ、本学の教育目標達成のための主要科目は必修科目とし、他の科目は個々の能力に幅広く対応できるよう選択科目として位置付ける。</p> <p>「導入科目」（2科目） フレッシュマンセミナーⅠ（基礎）、フレッシュマンセミナーⅡ（応用） 「人文科学」（4科目） 臨床倫理学、地域文化論、心理学概論、行動科学概論 「社会科学」（4科目） 社会学、経営学、法学、対人関係論 「自然科学」（5科目） 統計学、生物科学、地域環境学、人間支援科学、物理学 「体育関係学」（2科目） レクリエーション、保健体育 「情報」（2科目） 情報処理技法、情報処理演習 「外国語」（7科目） 英語Ⅰ（初級）、英語Ⅱ（中級）、英語Ⅲ（上級）、オーラルコミュニケーションⅠ（初級）、オーラルコミュニケーションⅡ（中級）、オーラルコミュニケーションⅢ（上級）、医療英文抄読法</p> <p>②専門基礎分野（理学療法専攻33単位以上、言語聴覚専攻43単位以上） 「高度な知識に裏打ちされた医療従事者及び研究者の育成」を目的に、専門分野での学習が円滑に行えるために、「基礎医学」「臨床医学」「社会福祉」「リハビリ関連科目」「心理関連科目」の5領域に分けて、医学分野及びリハビリテーション分野の基礎知識を身に付ける。特に基礎医学、臨床医学、社会福祉は基礎分野の中核をなす科目として重要のため必修とし、リハビリ関連科目及び心理関連科目は選択科目とする。</p> <p>「基礎医学」（8科目） 解剖学Ⅰ（総論）、解剖学Ⅱ（各論）、解剖学実習、生理学、神経生理学、生理学実習、病理学概論、医学概論 「臨床医学」（9科目） 臨床心理学、生涯発達心理学、内科学、臨床神経学、小児科学、精神医学、リハビリテーション医学、医療安全管理学、感染症学 「社会福祉」（2科目） リハビリテーション概論、保健医療福祉制度論 「リハビリ関連科目」（7科目） 高次脳機能障害学概論、摂食・嚥下障害学概論、チーム医療学、認知症、薬理学、生化学、栄養学 「心理関連科目」（10科目） 社会心理学、食の心理学、健康心理学、児童心理学、心理学実験演習、心理測定法、認知心理学、学習心理学、音響・聴覚心理学、神経心理学</p>	<p>○設置認可時の予定通りに履行している。</p> <p>○変更なし</p> <p>○統計学、保健体育の2科目については、平成21年11月の文部科学省医学教育課からの指導により、選択科目から必修科目に変更した。</p> <p>○変更なし</p>

③専門分野（理学療法学専攻 67単位以上）
 理学療法学専攻での専門分野は、主に患者の身体的・社会的な面に対して、理学療法の基本知識・技術・応用力を体系的に学ぶため、「基礎理学療法学」「理学療法評価学」「理学療法治療学」「地域理学療法学」「臨床実習」「特論」の6分野で構成している。医療施設のみならず地域リハビリテーションの分野での実践力を重視し、保健医療福祉分野の各専門職者と連携・協働できるように、また、従来の治療医学のみならず予防医学に展開できるように、教育課程を編成する。

「基礎理学療法学」（10科目）
 基礎運動学概論、基礎運動学各論、運動学実習、整形外科学、理学療法概論、基礎理学療法学、基礎運動療法学、リハビリテーション工学、動作解析学実習、臨床運動学

「理学療法評価学」（3科目）
 理学療法評価学、理学療法評価学実習、理学療法評価学演習

「理学療法治療学」（17科目）
 物理療法学、物理療法学実習、日常生活活動学、日常生活活動学実習、運動器疾患理学療法学、運動器疾患理学療法学実習、中枢神経疾患理学療法学、中枢神経疾患理学療法学実習、神経・筋疾患理学療法学、発達障害理学療法学、呼吸器疾患理学療法学、循環器疾患理学療法学、代謝系疾患理学療法学、スポーツ障害理学療法学、老年期理学療法学、健康増進理学療法学、義肢・装具学

「地域理学療法学」（2科目）
 生活環境論、地域リハビリテーション論

「臨床実習」（5科目）
 臨床見学実習、基礎実習、臨床評価実習、臨床総合実習Ⅰ（評価・治療）、臨床総合実習（総括）

「特論」（4科目）
 理学療法技術学Ⅰ（中枢）、理学療法技術学Ⅱ（運動器）、理学療法技術学Ⅲ（痛み）、卒業研究

④専門分野（言語聴覚学専攻 57単位以上）
 言語聴覚学専攻で行う専門分野では、「言語聴覚障害学」「失語・高次脳機能障害学」「言語発達障害学」「発声発語・嚥下障害学」「聴覚障害学」「臨床実習」「特論」の7分野に分け、それぞれ体系的に学べるように配置する。特に、「高度な知識に裏打ちされた医療従事者の育成」さらに、「摂食・嚥下障害や言語及び認知機能についての評価や治療が行え、十分な対応が可能な言語聴覚士の育成」を目的としていることから、実践的な評価や治療技術が必要な科目に関しては、実習を配置し、臨床現場で即座に対応できるように構成する。

「言語聴覚障害学」（4科目）
 言語聴覚障害学総論、言語聴覚障害学診断学、言語学、音声学

「失語・高次脳機能障害学」（4科目）
 言語医学、失語症学、高次脳機能障害学各論、高次脳機能障害学実習

「言語発達障害学」（5科目）
 言語発達学、言語発達学概論、言語発達障害学各論Ⅰ（MR・自閉症）、言語発達障害学各論Ⅱ（CP・その他）、言語発達障害学実習

「発声発語・嚥下障害学」（10科目）
 音声医学、形成外科学、臨床歯科医学、音声障害学、運動障害性構音障害学、器質・機能的構音障害学、吃音、呼吸リハビリテーション学、摂食・嚥下障害学各論、摂食・嚥下障害学実習

「聴覚障害学」（7科目）
 聴覚医学、耳鼻咽喉科学、小児聴覚障害学、成人聴覚障害学、補聴器・人工内耳、聴力検査法、聴力検査実習

「臨床実習」
 臨床見学実習、基礎実習、臨床評価実習、臨床総合実習

「特論」
 言語聴覚学演習Ⅰ（基礎）、言語聴覚学演習Ⅱ（専門）、言語聴覚学演習Ⅲ（臨床）、卒業研究

以上の教育課程を体系的に編成する。

（注）・ 1～6の項目により記入した事項以外で、設置認可時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
 ・ 認可申請書の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

③ 教員組織の編成の考え方及び特色

認可時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>1. 理学療法学専攻</p> <p>理学療法士の免許を有し、経験5年以上の教員を8名配置している。そのうち教授4名、准教授1名は博士の学位を有している。また、リハビリテーション領域における教育・研究業績が豊富な医師1名を配置する。専門分野の「基礎理学療法学」分野の専任教員2名、「理学療法評価学」分野の専任教員1名、「理学療法治療学」分野の専任教員5名、「地域理学療法学」分野の専任教員1名を配置した。これらの教員配置により、各領域の理解を深める充実した教育体制を整え、専門分野の理解を深められるように指導する。</p> <p>2. 言語聴覚学専攻</p> <p>言語聴覚士の免許を有する教員を6名配置している。そのうち教授3名・准教授1名は博士の学位を有し、臨床及び教育・研究の実績がある教員である。その他に、言語聴覚士に関わる分野において、教育が可能な医師及び歯科医師も配置する。特に、言語聴覚士として中核をなす分野には実習科目が配置してあり、それぞれ専任教員が担当する。分野別の担当教員は、「失語・高次脳機能障害」分野の教員を2名、「摂食・嚥下障害学」分野の教員を2名、さらに「言語発達障害学」分野の教員は2名、「聴覚障害学」分野の教員を2名とし、各分野に専任教員を配置する。本学の建学の精神である高度な知識に裏打ちされた医療従事者の育成に十分な教員組織を構成する。</p>	<p>○理学療法学専攻の教員組織のうち、齋藤信夫准教授は理学療法士の免許と博士の学位を有している専任教員であるが、本人の事情により辞退した。よって教員組織の編成は、「理学療法士の免許を有し、経験5年以上の教員を7名配置している。そのうち教授4名は博士の学位を有している。」に変更となる。後任については、現在調整中である。</p> <p>○平成22年度就任を辞退した齋藤信夫准教授の後任として、理学療法士の免許と博士の学位を有している濱出茂治教授を平成23年度より配置した。よって、教員組織の編成は、「理学療法士の免許を有し、経験5年以上の教員を8名配置している。そのうち教授4名、助教1名は博士の学位、教授2名、助教1名は修士の学位を有している。」に変更となる。</p> <p>○言語聴覚学専攻の教員組織については、設置認可時より変更なし。</p> <p>○言語聴覚学専攻の教員の中で、言語聴覚士免許を有する者のうち、岩田まな教授が一身上の都合により退職した。よって、「言語聴覚士の免許を有する教員は6名から5名への配置の変更となり、教授2名、准教授1名は博士の学位を有し、助教2名は修士の学位を有する教員編成である。」に変更となる。岩田まな教授の後任については、現在調整中である。</p>

(注) ・ 1～6の項目により記入した事項以外で、設置認可時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)

及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

新潟リハビリテーション大学

適宜項目を設けてください。(記入例参照)

⑤ 施設、設備等の整備計画

認可時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>校地、運動場の整備計画 校地、運動場については平成22年度から平成24年度までは新潟リハビリテーション専門学校と共用とする。(11,026.28㎡) 運動場(グラウンド)は校地より5kmの位置にある土地を村上市より借り受け(約5,000㎡)、グラウンド用地として整備し、主として学生の課外活動の際に利用する。さらに校地内に体育館(341.00㎡)の新築も予定している。グラウンド、体育館の主な用途としては、学生のサークル活動、福利厚生での使用を予定している。 E棟2階の屋上は、C棟1階の学生食堂(273.26㎡)と共に学生の交流の場、憩いの場として開放する事を予定している。</p> <p>図書等の資料及び図書館の整備計画</p> <p>①図書資料の整備 現在、新潟リハビリテーション専門学校(以下、専門学校とする)の図書室は拡充され(470.17㎡)、最大80,000冊を収容できるスペースを確保しており、これを共用とする。本学は専門医療分野の蔵書を中心として、専門学校の蔵書16,618冊(うち外国書900冊)及び新潟リハビリテーション大学院大学(以下、大学院とする)の蔵書2,750冊(うち外国書307冊)をあわせ蔵書数19,368冊をすでに備えている。これに加え開学前年度には、電子ジャーナルを中心に整備をし、心理、哲学、国文学、英米文学などを含む教養基礎分野の蔵書も購入することにより、開学時には少なくとも約21,000冊の蔵書を整備する。学術雑誌は専門学校購読雑誌20種(うち外国誌1誌)と大学院購読雑誌30誌(うち外国誌16誌)の計50誌(17誌)を整備する。視聴覚資料については、専門学校所蔵分545点及び大学院所蔵分51点、計596点を整備する。なお、専門学校所蔵分の図書等については、完成年度まで随時移管する。</p> <p>②電子ジャーナル・電子データベースの整備 現在文献検索データベースとして国立情報学研究所の「CiNii(サイニー)」を整備し、開設時まで、医学文献情報データベースとして「メディカルオンライン」「医学中央雑誌Web版」「Medical Finder」を整備しインターネット上で検索できるサービスを提供する。電子ジャーナルは、現在、Age & AGING-PRINT+ONLINE、DYSPHAGIA-PRINT & ONLINE、NEUROPSYCHOLOGICAL REHABILITATION-PRINT & ONLINE、Archives of Clinical Neuropsychology-PRINT & ONLINEの4誌を導入しているが、開設時までには理学療法分野でJournal of Bodywork and Movement Therapies、Physical Therapy in Sport、Physiotherapy等19誌を導入し、言語聴覚分野ではJournal of Voice、Otolaryngology - Head and Neck Surgery、Brain and Language等13誌導入を予定している。開設後は利用頻度を勘案しながら、また学生の希望に応じて具体的な整備計画を策定しより一層の充実を図る。(資料17参照：開設次追加分 新規電子ジャーナル一覧)</p> <p>③他大学との協力 新潟県大学図書館協議会及び新潟県図書館等情報ネットワークに加盟する。学部設置の際は、図書館にて他大学の蔵書を検索できるようにする。</p> <p>④図書館の整備 図書館は、閲覧席数90席及び視聴覚ブース7席など計97席を備える。開設時には開架式書架を整備し、約3万6千冊の収蔵が可能なよう整備する。完成年度までに開架式書架、閉架式書架を増設し、更に収容可能冊数を増やすよう整備する。また、教員の教育研究活動を支援し、学生の勉学を手助けするため、調査・研究活動の援助、相談を図書館専門職員により随時行う。学生及び教職員が図書館資料を複写できるよう、閲覧室内に複写機を配置する。</p>	<p>○体育館 341㎡→338.27㎡に変更 建築計画と登記上面積の誤差による変更。</p> <p>○平成23年度現在、本学のサークル数は10を超え、今後も増え、学生の課外活動が活発になることが予想される。また、学生の希望に合わせてグラウンド設備の改善を行う。ネット、レーキ、サッカーゴール、野球用具等を購入することにより充実を図っている。</p> <p>○C棟1階食堂の改修工事を平成23年度中に施工する予定であり、工事完了後にはより一層快適に過ごせる食堂になる予定である。</p> <p>○開学時の蔵書の整備について、設置計画段階では21,000冊を予定していたが、学生の学習や知的好奇心の増進に資する為、1670冊増やし22,670冊の蔵書の整備を行った。</p> <p>○学生の学習を支援するために、講義概要に記載されているテキスト・教科書・指定図書・参考書全てを、1冊以上購入し整備を図った。</p> <p>○「Medical Finder」に関して、計画では22年4月中に整備予定であったが5月1日現在未整備である。これは本学で未取得であったIPアドレスが本電子ジャーナルには必要不可欠であり、取得のため業者と日程調整を進め、本年6月中には整備できる予定である。 ○平成22年6月に電子ジャーナル用固定IPアドレスを整備した。また電子ジャーナル「Medical Finder」は整備した。</p> <p>○共生型大学連携事業に加盟し新潟県内の大学の学生が各大学図書館の特色のある蔵書を簡単に利用できるようなった。この事により県内教育研究資源の有効活用を図り、各大学の教育・研究の活性化と学習支援サービスの向上を目指している。</p> <p>○初年度につき変更事項は特になし。 認可時の計画通り履行すべく鋭意努力している。</p>

(注)・ 1～6の項目により記入した事項以外で、設置認可時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
 ・ 認可申請書の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。(記入例参照)

⑥ 入学者選抜の概要

認可時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>(a) 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー） リハビリテーション分野において地域社会や国際社会に貢献するためには、人間愛や道徳心を持ち、広い視野に立って専門性の高い知識や技術を身に付けることが求められる。このため、高校時代において大学の授業の土台となる教科として、特に、国語、理科、英語をしっかりと勉強しておくことが、きわめて重要である。これらの教科の基礎知識を幅広く確実に修得しておくことは、大学の授業をスムーズに理解するのに役立つ。</p> <p>(b) 入学資格 ① 高等学校又は中等教育学校を卒業した者 ② 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者またはこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者 ③ 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した学校教育施設の当該課程を修了した者 ④ 文部科学大臣の指定した者（昭和23年5月31日文部省告示第47号） ⑤ 高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第1号）による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（同規則附則第2条の規定による廃止前の大学入学資格検定試験（昭和26年文部省令第13号）による大学入学者資格検定に合格した者も含む。）</p> <p>(c) 募集人員と選考方法 ① 理学療法学専攻（40名） 一般入学試験 A日程 17名 B日程 3名 「調査書」「学力試験」「面接」による総合判定 特別入学試験 公募推薦 18名 社会人選抜 2名 「調査書」「面接」「小論文」による総合判定 ② 言語聴覚学専攻（40名） 一般入学試験 A日程 17名 B日程 3名 「調査書」「学力試験」「面接」による総合判定 特別入学試験 公募推薦 18名 社会人選抜 2名 「調査書」「面接」「小論文」による総合判定</p> <p>(c) 入学者選抜方法 新潟リハビリテーション大学</p>	<p>○ 本学の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）を遵守すべく入学試験を実施した。入学試験には設置計画に従い、面接に加え、小論文（推薦・社会人）および科目試験（必修：国語、選択：物理・化学・生物）を課した。英語を積極的に取り入れるという意味で、入学後にプレイスメントテストを受けさせ、クラス分けによる英語の講義を行っている（英語ⅠⅡⅢ・オーラルコミュニケーションⅠⅡⅢ）。</p> <p>(c) 募集人員と選考方法 ① 理学療法学専攻（40名） 一般入学試験 A日程・B日程・C日程 合計18名 「調査書」「科目試験」「小論文」による総合判定 推薦入学試験 指定校推薦および公募推薦A日程・B日程・C日程 合計15名 「調査書」「面接」「小論文」による総合判定 社会人選抜A日程・B日程・C日程 若干名 「調査書」「面接」「小論文」による総合判定 AO入学試験 合計5名 2回の適性相談で適性を認められた場合出願可能となる。 「面接」による総合判定 大学入試センター試験利用入学試験 A日程・B日程 合計2名 「平成23年度大学入試センター試験の受験科目より本学が指定する科目試験」「提出書類」による総合判定。 ② 言語聴覚学専攻（40名） 一般入学試験 A日程・B日程・C日程 合計18名 「調査書」「科目試験」「小論文」による総合判定 推薦入学試験 指定校推薦および公募推薦A日程・B日程・C日程 合計15名 「調査書」「面接」「小論文」による総合判定 社会人選抜A日程・B日程・C日程 若干名 「調査書」「面接」「小論文」による総合判定 AO入学試験 合計5名 2回の適性相談で適性を認められた場合出願可能となる。 「面接」による総合判定 大学入試センター試験利用入学試験 A日程・B日程 合計2名 「平成23年度大学入試センター試験の受験科目より本学が指定する科目試験」「提出書類」による総合判定。</p>

- (注) ・ 1～6の項目により記入した事項以外で、設置認可時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
・ 認可申請書の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

平成19年度に先に開学していた大学院のFD委員会を、学部増設に伴い、院と学部の合同の委員会に改編した。学部長を委員長とし、教員7名6名、事務職員1名の合計8名7名で構成している。FD委員会は教員の教育指導能力の向上、研究能力の向上を図ることを目的とし、学内におけるFD活動が持続的に実行されるよう運営を行う。FD委員会の規程を下記に転載する。

新潟リハビリテーション大学 ファカルティ・デベロップメント委員会規程

- (目的) 第一条 この規程は新潟リハビリテーション大学学則第2条(3)及び大学院学則第2条(3)に基づき設置されるファカルティ・デベロップメント委員会(以下「委員会」という)の構成、役割、運営等について定める。
- (構成) 第二条 委員会は次に掲げる委員をもって構成する。
1. 学長が委嘱する委員若干名。
2. 委員の任期は2年とする。
- (役割) 第三条 委員会はファカルティ・デベロップメント活動(以下FD活動という)が持続的に実行されるよう、次の事項について審議するとともに、各年度におけるFD活動の推進機能を併せもつものとする。
1. FD活動の企画立案。
2. FD活動の実施計画の立案。
3. FD活動の評価。
4. FD活動に関する情報の収集と提供。
5. その他、学長の諮問する事項。
- (会議) 第四条 委員会は必要に応じて会議を開くものとする。
1. 委員会は委員長が召集し、その議長となる。
2. 委員長に事故があるときは、副委員長がその職務を行う。
3. 委員長は、必要と認められた場合、委員以外の者を出席させることができる。
4. 委員会は、委員の過半数を持って成立し、審議事項の決議には出席委員の過半数の賛成を必要とする。
- (規程の改廃) 第五条 この規程の改廃は、委員会の議を経て、大学の定める手続きによる。
- 付則 1. この規程は、平成19年4月1日から施行する。
2. この規程は、施行後2年以内に見直しを行うものとする。
3. この規程は、平成22年4月1日から施行する。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

【平成22年度】

- FD委員会：平成22年度第1回 → 平成22年4月12日（FD委員6名参加 2名欠席）
第2回 → 平成22年5月10日（FD委員7名参加 1名欠席）
第3回 → 平成22年7月12日（FD委員6名参加 2名欠席）
第4回 → 平成22年11月8日（FD委員7名参加 1名欠席）

【平成23年度】

- FD委員会：平成23年度第1回 → 平成23年4月11日（FD委員6名参加 1名欠席）

c 委員会の審議事項等

【平成22年度】

第1回FD委員会（平成22年4月12日）

1. FD委員会の位置づけ確認
2. 年度計画について
3. 新任教員研修会について
4. 第2回FD委員会について

第2回FD委員会（平成22年5月10日）

1. 年度計画について
2. 第1回FD研修会について
3. 講義アンケート内容について
4. 公開講義について
5. 第3回FD委員会について

第3回FD委員会（平成22年7月12日）

1. 講義に関するアンケートについて
2. 第3・4回FD研修会について

第4回FD委員会（平成22年11月8日）

1. 第4回FD研修会について
2. 公開講義について

【平成23年度】

第1回FD委員会（平成23年4月11日）

1. 平成22年度 FD活動報告
2. 平成23年度 FD活動計画（案）

② 実施状況

a 実施内容

- ・年間計画の立案、作成（下記に平成22年度・平成23年度の年間計画を示す。）
- ・新任教員のための研修会
- ・専任教員のためのFD研修会
- ・講義評価アンケートの実施
- ・講義評価アンケートの各教員へのフィードバックと改善に向けた意見書作成
- ・公開講義

平成22年度 FD活動年間計画

- 4月 新任教員研修
- 5月 FD委員会
- 6月 FD研修会
- 7月 FD委員会、学生による講義アンケート実施
- 9月 FD研修会
- 10月 公開講義開催
- 12月 FD研修会
- 2月 学生による講義アンケート実施
- 3月 公開講義開催

平成23年度 FD活動年間計画

- 4月11日 FD委員会・新任教員研修会（4月25日実施「新潟リハビリテーション大学を知る」、FDとは等）
- 5月 公開講義開催（5月13日開催予定「神経生理学」真貝富夫教授）
- 6月 第1回FD研修会（6月13日開催予定「本学学生の特徴と今後の対応について 統編」）
- 7月 平成23年度前期講義に関するアンケート実施
- 9月 FD委員会
- 10月 公開講義開催
- 11月 FD研修会
- 12月 FD委員会
- 1月 FD研修会
- 2月 平成23年度後期講義に関するアンケート実施
- 3月 FD委員会

b 実施方法

- ・新任教員のための研修会について
年度当初にFD委員会主催による新任教員のための研修会を実施する。FDの目的や位置づけについて理解を深めるとともに、FD活動の取り組みについて周知させることを目的とする。
- ・専任教員のためのFD研修会について
専任教員を対象に、年3回程度のFD研修会を実施する。テーマはFD委員会が決定する。
- ・講義評価アンケートの実施方法について
全ての講義の最終コマにおいて、受講した学生に担当教員がアンケート用紙を配布し、無記名で回答してもらう。アンケート内容は14項目19項目+2項目の自由記載とする。
アンケート用紙はFD委員が回収し、集計およびとりまとめを行う。
- ・講義評価アンケートの各教員へのフィードバックと改善に向けた意見書作成方法
講義評価アンケートの集計結果を各教員へ渡す。各教員はその結果を建設的に役立てていくべく、次年度に向けた改善意向、意見、抱負等を記載した意見書をFD委員会へ提出する。FD委員会は個々の講義評価とそれに対する教員対応とをとりまとめ、全体の報告書を作成し、学長に報告する。学長は報告内容について、総合的判断を行う。
- ・公開講義について
講義評価アンケートの集計結果から高得点を得た教員の講義を公開する。公開講義を行うことで、「良い講義」や「講義技術」を教員等が学びとり、教育のスキルアップを図る。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

【平成22年度 FD委員会活動報告】

・新任教員のための研修会

平成22年4月19日に実施。（1名のみ欠席）

内容：①FDとは何か。 ②なぜFDが必要なのか。 ③大学FD活動の具体的な取り組みについて

・専任教員のためのFD研修会

第1回：平成22年6月14日開催予定

テーマ「これからの大学教育の質保証のあり方—大学と評価機関の役割」

参加教員：19名（6名欠席）

第2回：平成22年9月に実施予定 10月18日開催

テーマ「よい講義をするためのポイント～できない学生をできる学生にできるか～」

参加教員：21名（4名欠席）

第3回：平成22年12月に実施予定 平成23年2月28日開催

テーマ「未定」「本学学生の特徴と今後の対応について」

参加教員：18名（7名欠席）

・講義評価アンケートの実施について

各講義の最終コマに担当教員が学生に配布し、FD委員会にて回収と集計を行う予定—実施した。

平成22年7月中旬～下旬：講義に関するアンケート実施（対象：前期終了17科目）

平成23年2月中旬～下旬：講義に関するアンケート実施（対象：通年ならびに後期終了27科目）

・講義評価アンケートの各教員へのフィードバックと改善に向けた意見書作成

FD委員会が作成中FD委員会にて改善に向けた意見書「講義に関するアンケートに対するアンケート（教員用）」を作成した。

各担当教員へアンケート結果を配布し、各担当教員が意見書に改善に向けた意見を記載した。

・公開講義

10月ならびに3月に実施する予定。

平成23年2月24日 前期の「講義に関するアンケート」で高評価を得た講義を公開した。

「社会心理学」 佐藤拓講師の公開講義を実施。（参加教員13名）

※通年ならびに後期終了科目に対する公開講義は次年度の4月又は5月に開催する予定。

【平成23年度 FD委員会活動報告】

・新任教員のための研修会

平成23年4月25日（対象教員2名参加、昨年度欠席者1名を対象とし今年度参加）

内容：①新潟リハビリテーション大学を知る。②本学におけるFDの取り組み

・専任教員のためのFD研修会

第1回：平成23年6月13日開催予定

テーマ：「本学学生の特徴と今後の対応について 続編」

第2回：平成23年11月開催予定

テーマ：「未定」

第3回：平成24年1月開催予定

テーマ：「未定」

・講義評価アンケートの実施について

各講義の最終コマに担当教員が学生に配布し、FD委員会にて回収し集計する予定

平成23年7月中旬～下旬：講義に関するアンケート実施（対象：前期終了45科目予定）

平成24年2月中旬～下旬：講義に関するアンケート実施（対象：通年ならびに後期終了47科目予定）

・講義評価アンケートの各教員へのフィードバックと改善に向けた意見書作成

各担当教員へアンケート結果を配布し、各担当教員が改善に向けた意見を記載する。

・公開講義

平成23年5月13日 前年度の「講義に関するアンケート」で高評価を得た講義を公開する。

「神経生理学」 真貝富夫教授の公開講義を実施予定。

平成23年10月（未定） 前期の「講義に関するアンケート」で高評価を得た講義を公開する予定。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

→講義評価の集計結果は各教員のフィードバック、改善計画等を提出し、検討していくことを予定している。

①FD研修会において、授業改善に対する講義を行った。

第2回 FD研修会「よい講義をするためのポイント～できない学生をできる学生にできるか～」

講師：野田 忠 教授（参加者21名）

②「講義に関するアンケート」の集計結果を各科目担当教員に配布し、改善案を収集している。

③「講義に関するアンケート」にて高評価を得た教員の講義を公開した。

公開講義 「社会心理学」

講師：佐藤 拓 講師（参加者13名）

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

開学後（1ヶ月）間もないため、自己点検・評価は未実施であるが、点検・評価に向けて、自己点検・評価委員会、FD委員会、大学運営委員会等を学内に組織した。今後は自己点検・評価委員会を中心に具体的な検討を定期的に行っていく、設置の趣旨・目的を達成できるように努力していきたい。

自己点検・自己評価規程および自己点検・自己評価委員会規程に基づき、自己点検・評価の作業を開始した。FD委員会はFD研修会を年3回実施。大学運営委員会は予算・入試等について検討を行った。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

自己点検・評価報告書の前段階として、平成22年度の活動を記した年報を平成23年度中に公表する予定。
平成22年度年報を作成し、11月に公表した。

b 公表方法

- ・作成した年報を教職員及び希望のあった学生、他、共同研究実施企業や関連団体、個人に希望冊数を配付予定。
- ・新潟大学学術リポジトリ内の組織である「新潟県地域共同リポジトリ」で公開する予定である。
- ・平成22年度年報を教職員及び希望する学生に配付すると共に、共同研究実施企業や関連団体、個人に希望冊数を配付した。
- ・新潟大学学術リポジトリ内の組織である「新潟県地域共同リポジトリ」で公開した。

③ 認証評価を受ける計画

現在大学院で「財団法人大学基準協会」で評価を受ける予定としており、学部も同協会にて評価を受ける予定としている。

(注) ・ 設置認可時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報提供に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

- a ホームページに公表の有無 (有 ・ 無)
- b 公表時期 (未公表の場合は予定時期) (平成23年 7月 末日)
- c 文部科学省ホームページから、貴学ホームページの「設置計画履行状況報告書」掲載ページへのリンク (承諾する ・ 承諾しない)
- d 上記で「承諾する」を選んだ場合、そのリンク先のアドレス
<http://nur.ac.jp/about/public.html>

(注) ・ 「c」において「承諾する」場合、文部科学省のホームページにてリンク先を掲載しますので、大学等のトップページではなく直接リンクする先を「d」に記入してください。

なお、「d」のリンク先のアドレスが未定の場合は、決まり次第、文部科学省高等教育局大学設置室あてに、メールにてご報告ください。

※大学設置室メールアドレス : d-secchi@mext.go.jp

件名は「【調査係あて】AC報告書等HPリンク先(〇〇大学)」としてください。